

令和８年度第１回白井市文化会館運営協議会会議録（概要）

- １．開催日時 令和８年７月２４日（金） 午後３時００分から午後４時３５分まで
- ２．開催場所 文化センター２階 かおりホール
- ３．出席者 委員 佐藤会長、吉井副会長、白岩委員、長野委員、坂巻委員、佐藤(眞)委員、中山委員、鈴木委員、田中委員
- ４．欠席者 野口委員
- ５．事務局 高花センター長、佐山主査、長谷川主査、金井主任主事
- ６．傍聴者 ２人
- ７．議題（１）令和７年度事業報告について
（２）令和８年度事業計画（案）について
- ８．その他（１）文化センター改修等事業について
- ９．議事 以下のとおり

１ 会議開催

２ 議題（１） 令和７年度事業報告について
（事務局説明）

- ① 委託料の執行残が結構あって、執行率も全体として 88%と若干低めだと思うが、途中で補正等を行わなかったのか。（委員）
→ 主に残額が出たのは 7-3 の舞台業務委託料で、当初は舞台の音響、照明を委託し、昨年度から他に舞台の袖で緞帳の上げ下げ等を行う大ホールの舞台管理業務も委託するようになった。当初後者は別の契約とする予定であったが、最終的に一括の契約になった。統合した関係で予算が少し下がることが想定されたが、例年３月の利用率が高く、補正予算の時期は６月、９月、１２月、３月にあるが、３月議会に間に合わせるには１月の終わりに見込みを出さなければいけないので、３月の利用が多くて見込めないところがあることから減額補正を行わないこととした。その為、多少多めに残額が出たというのが実際のところである。（事務局）
- ② 資料３で施設の利用実績が１０月は他の月よりも突出して多いが理由は何か。（委員）
→ １０月の利用実績が多い理由は、合唱祭等が重なり利用率も高く、更にそこに参加される方々の人数が含まれているためと考えている。なお、１１月も文化祭により多少利用人数が増えていると捉えている。（事務局）
- ③ 資料１の５番手数料と 7-1 ピアノの保守点検委託料を見ると両方ピアノの修理に見えるが、あえて分けているのは何故か。（委員）
→ ５番の手数料は定期調律を指している。7-1 のピアノの保守点検は、鍵盤の調整や各種調整等、ピアノ全体を見もらうため各々が別のものであることから両者を分けている。（事務局）
- ④ 全体的な保守と定期的な調律の違いだと思うが、いつぐらいに行っているのか。（会長）
→ 定期調律は音楽祭とか催しが近づいたら実施したり、他は利用者の要望に応じて実施している。保守点検は大体年度末に予定している。また、調律は２時間くらいで終了するが、保守点検の方はバラしたり元に戻したりするので、丸一日の作業になったりする等の違いもある。（事務局）

- ⑤ 歳出が実際にかかったのは約 3,000 万円で歳入と歳出の差し引きを出し結果的に文化会館は市民の税金がどれくらい払われているのかという差額を出してもらえると嬉しい。
- 歳入は 200 万円くらいなので 3,000 万円弱が実際この文化会館を確保するために必要な市民の税金が支払われているという捉え方でよいか。
- 自主事業については分かりやすくなった。実際の売り上げと支出に関する関係がよくわかる。
- 宝くじ公演ではあまりお金がかかってないけど、売り上げがたくさんあり非常によかったと思っている。逆に名曲コンサートで千葉交響楽団が結構公演料が高いので仕方ないが、その部分の回収率が 24%で約 7 割強のところを市民のために税金を使って行ったと理解して自主事業としての考え方に関しては結構重要な話なので、そこだけ確認したいと思っている。(会長)
- 資料に入れ漏れたところがあり千葉交響楽団で公演料 2,238,000 円の 2 分の一について県からの負担金があるので実質的な市の持ち出しはもう少し下がると思う。後ほど資料で送らせていただく。(事務局)
- ⑥ 前に議論になったと思うが、国や県等の色々な助成金を活用して、できるだけ多く質の高い事業をやってくださいというお願いをしたと思う。これに対して安い入場料でできるだけいい音楽や公演をも併せて実施してほしい。多くの税金を使うことになるから、できるだけ回収率の高いものを実施していただくということ、今後も継続していただければと思う。(会長)

議題 (2) 令和 8 年度事業計画について

(事務局説明)

- ① 伊藤順一ピアノコンサートを 2 回実施するということであるが、今まで色々な方がやってきたが、同じ方で 2 回というのはなかったかと思うが何故同じ方が 2 回なのか。(委員)
- 市内在住でショパンコンクールにも出ている伊藤さんという方がリサイタルだと 90 分や 120 分で途中で休憩を挟んで行うが、今回名称を含めて検討中であるが、気軽にクラシックに触れ合えるような機会ということで地元への貢献ということも含めて、定期的に春秋で何回かシリーズでやっていきたいと考えている。また、クラシックは敷居が高いという方もいらっしゃるが、時間も短く、値段も安価で演奏とトークを交えて等、現在調整中だが市内の小中学生は場合によっては無料にする等して市民の方にぜひ来ていただきたいという思いで年 2 回という設定をしている。(事務局)
- 本来この審議は遅いと思う。要するにこの場で皆さんに聞いても、なぜっていうだけしか答えはないので、できれば本来の審議をもう一個前でやって協議をしないと、審議が PDCA として回っていかないと思う。
- これ前にも話したことがあるが、予算の話で言いにくいことは分かっているが、こんな感じで企画をしていきたいという内容を、本来は 1 回前の段階で議題を上げていただければと思う。その時に、例えば本当ならば自主事業なので、年度が始まった時には全部確定できているとよい。予算になるので、10 月、12 月くらいで大体決まってくると思うが、概算要求は大体 12 月で調整があって、3 月に議会をとおして初めて公開できるという前提は理解できる。その中で来年何をやろうかなという議題をこの中で一回揉みたいと思っている。概算要求の前の段階で文化会館としての予算規模や企画について協議を行う会にしないとこの議論が成立しないと感じている。前は何かいいアイデアはありませんかと、我々に募集されたことがある。なかなか実現し難いのは我々も重々承知しているし、事務局も色々当たって探しているとは思いますが、それだけでは多分限界があるし、逆に我々のことを色々利用していただいて考えていただければと思う。(会長)
- お金がかかる自主事業でも予算要求はできるが、結局は要求を上げて予算がつかなければ駄目になる。例え

ば 200 万円だから大丈夫なのかと言われても、そのときの財政状況にもよると思うが、実際枠で予算をつけてくれば一番良いが、その辺は要求後にどこのタイミングで OK が出るのかが不透明なため申し上げることができない。もちろん無償でやっていただけるイベントがあれば一番良いが、そういったのもできれば利用しながら自主事業としてやっていければ考えている。(事務局)

→結構無理なことを言っているのは重々承知しているが、例えば昨年、千葉交響楽団に来ていただいて多分 300 万円から 500 万円かかっている。それをやろうと思うと、今回は半分県の助成をつけて OK を取ったと思うが、そういったところで何ができるか、特にオーケストラみたいな話で、規模が大きくなってくると企画や収支等の幅広い議論をして、我々の方も議会とか予算書の要求を上げるときに知恵を出せると思うし、資料も作れると思うので、このような点も踏まえ協議の場で作っていきたい。ぜひ情報をいただければと思う。(会長)

→先程の伊藤順一さんのコンサートの関係だが、説明の中では年 2 回、季節ごとのコンサートで、できればクラシックを普及していきたいという思いがあるように伺ったが、これは令和 8 年度だけで終わらせないでその先ももし可能ならばやっていきたいという思いがあつてのことなのか。(委員)

→委員おっしゃるとおり事務局としては令和 8 年度で終わらせるのではなく、継続して気軽にクラシックに親しめる機会にしたいと伊藤さんも言われていたので続けていければと思う。(事務局)

→昨年度の千葉交響楽団のコンサートで 2 分の 1 が県から助成金が出たということだが、県から助成金が出るものと出ないものの基準は何か。昨年度の半分出たというのは県の主催的なものだったから県から助成金が出たのかどうか。逆に県ではない今年度というワンコインコンサート、バイオリン等は別のところから助成金が出るのか出ないのかについて教えていただきたい。(委員)

→自主事業については、基本的には白井市が出すというのが前提となる。それは実施する公演でどういう方を呼びたいかというのを、市と公演の委託先との契約になる。千葉交響楽団名曲コンサートは、県の事業に市が応募するという形になる。他、例えば〇〇財団助成事業というのがあると思うが、そういったものに市が応募し採択され、事業が確定すると公演料の二分の一を県が負担するというように確定する。実際千葉交響楽団のコンサートについて、クラシックは少し敷居が高くて白井くらいのキャパシティだと、入館料、入場料等を高く設定しなければならないが、県から半分出る為少し価格設定も安くできるとか、地元まで来てくれるというのがある。9 月又は 10 月の秋くらいに来年度の開催希望調査があり、そこに応募し手を挙げて採択される見込みが高ければ、市としても半分助成金が出るなら予算確保に前向きな話になってくる。一番良かったのはこの宝くじ公演で、今回初めて実施したが、公演料が 93 万 5 千円と書いてあるが、細かく申し上げると、資料のとおり収入額の半分になっているというのがご理解いただけると思う。

187 万円の半分となっている。実際、公演料というような形で契約をするのではなくて、総入場者数の金額の 2 分の 1 を収めれば良くて、例えば満席になればもう少し公演料は上がるが、逆に例えば 6 割ぐらいしか入らなかったらもう少し下がる。ただ 6 割入らないと地元が頑張っていないということなので、宝くじの財団からお叱りを受けてしまうようなところもある。ただ非常にうまく企画が練られている事業で、多少お金も時間もあるような方向けに、一回は紅白で見たことがあるとか口ずさめるような方が出演するようなプログラムが組まれていて、どこでも満席に近いという事業になっており、手を挙げても採択されないこともある。一昨年は確か外れている。会長もおっしゃっていた通り、なるべく市の持ち出しが少ない形で集客が見込める事業を実施したいという中では有効な事業である。(事務局)

→宝くじもそうでしょうし、県もあるし、あと文化庁もある。あとは財団というのがいくつかあつて文化振興財団があると思うので、その辺をちょっと色々サーチして、いいものを探すしかないかなと思う。そういった情報をリストで頂ければ、協議会の委員で検討もできるし、助成金の提案書の書き方もアドバイスできる。ぜひ前向きに色々なことを進めていただければと思う。(会長)

3 その他（２） 文化センター改修等事業について

（事務局説明）

- ① 大規模改修が白紙の状態になったという状況だと思うが、メンテナンスや今後の計画は、老朽化に伴ってこの建物が使えなくなるという事が一番恐ろしい。我々の立場や利用者からするとそれがないような実際の運用計画はどうやっていくのか。（会長）

→2 ページの視点③と④に関わってくる部分になるかと思う。今一旦白紙になったという質問だったが、全部白紙にするわけではなく、これまでの市民アンケート等の調査結果や内容は活かしていきたい。次に質問に対する答えについては、③に計画の作成は終了するが、文化センターを市民に安全に利用してもらえるように計画的な施設の修繕を行うと書いてある。④には、進め方の再検討にあたっては公共施設総合管理計画の最適配置の方針など様々な可能性を検討していくとあり、今後の進め方として、大きく2つの視点がある。まずは、この④番の部分が今まではこの文化センターの建物ありきで大規模改修していくという形で進んでいたが、今回は市の他の計画も見直しが行われたことから、この建物にこだわらず、白井駅周辺や市の全体的な視点で市民の利便性等も考慮しながら最適配置を考えていこうと思っている。最適配置した結果、一部の機能がこの建物から出てどこか他の場所に行く可能性もあるし、全部この建物に残る、又はそれに加えてこの建物に新しい機能が最適配置される等、様々な可能性も考えながら、ただ一旦そこは置いておいて、この文化センターは大きな方針として全館存続となっているので、まずはそちらをしっかりと考えていきたいと考えている。なお、この最適配置を検討して進めていくといっても、すぐに引っ越しができるのか、そういうことではなくて、その検討をしている当面の間、今の文化センターを使い続けていくことになると思っている。先ほどの説明で、この建物を最低限使っていくためには65億円かかるという説明をしたが、それは今後30年程度この建物が本当に駄目になるまで使っていくという場合の金額なので、65億円まではかけないが最低限本当に緊急性が高い案件の修繕だけは実施してこの建物を当面の間は使っていくということを考えている。その金額やどの程度の箇所を修繕するのかというのは、今、教育委員会だけではなく市長部局、財政部門や施設管理部門とも相談しながら進めている状況である。（事務局）

→先ほど文化会館の昨年の決算結果を見たが、予算値としてはこの中に今後保守費とかが入ってくるようなイメージか。（会長）

→今、現行の財政推計としては資料の一番最後のページに示した通り1番のスケジュールのところで令和9年度に基本設計、令和10年に実施設計、11年・12年に工事と想定してそれぞれの金額を算出している状況である。今から進めようとしている修繕業務等はこの枠から外れているので、金額面も含めていつ実施するかは財政部門との調整になる。大元の金額はこの右側のスケジュールのところに書かれている金額で推計に載っているという状況である。（事務局）

→かなりの精度で色々なことを調査して資料ができあがっているという前提で、実際の文化会館の管理運営に関する経費ということで、先ほど審議して皆さんのご了解いただいたのが歳出の答弁で、こういった部門の予算のところで、また今まで積み上げてきた資料を参考にしながらこの数字に反映されてきたと思うが。（会長）

→管理運営については、現状ではまだ修繕計画を作っている部分で詳しい話には及んでいない。また、施設の運営形態については、これから検討していくため資料には入っていない。（事務局）

→管理運営に要する予算は資料に基づいて検討されていくと思っているが、実際には別枠でやるのか、それともこの枠でやるのか。（会長）

→修繕の規模感になると考えている。会長がおっしゃられていたのは開館しながらどこか少し直す予算がつく

のではないかとのご質問かと思う。今回、緊急的に修繕を必要とするところはなかなか目につきにくい屋上や空調の機械、電気設備等になる。こういうところの修繕をするためには開館しながらできるのか、どこかで休館してやらなければならないのか、その辺は今検討を進めているので、見通しが立ったらまたご報告をさせていただく。今の市の予算の持ち方としては、会館の運営経費には施設全体の修繕費は含まれておらず純粋に会館の運営のみになっていて、施設の修繕に要する予算等は別立てになっているが、どのような修繕を行うかは、この場で逐一報告はさせていただきたいと考えている。(事務局)

→予算ありきの話で、難しいのが市の予算なので手順を踏まないと予算も盛れない。それを合わせながら我々に報告いただければと思う。多分、運営協議会とタイミングが合っていないと思うが、概算要求の問題とか、いつから担当部署の調整が入ってくるのか、これくらいの予算でやっていくという手順がないと伝わらないと思う。今そう言われても、ここで承認しろって言う話には絶対にならない。できるだけ前段階で情報をいただければと思う。(会長)

→80 億とか 60 億とかの金額がピントこなくて市の全体でどのくらいを占めているのかもよくまだ把握できないのでこの先どうなるのかわからないが、緊急以外にどのくらいスパンを伸ばせる工事があるか知りたいと思った。先ほど視点でいくつかにあった街全体で収入を上げていくということに関して、データセンターができたなら当然税収が上がるわけで、そうすると、今の状況とは違うのではないかと考えている。入ってくる財源もきっと今とは違うので、計算方法も変わっていると思うし、その西白井とか白井駅の周りの 5 年計画を考えたら、真剣に本当にこの運営とは別に市の方で企業誘致とか色々なものと考えたら全然変わってくるのではないかと考えている。あとは、どれだけ後ろに押せる工事があれば時間を稼げて、もっと色々なことができるのではないかと。何十億という金額は現実的に考えても不可能だと思う。未来を真剣に考えてあと何が作っていけるのか。でも、現実的にデータセンターはもう絶対に税収が上がるんですよね。かけ離れた話になってしまうが、視点を言われると、それが一番確実じゃないかなと思う。(委員)

→先ほど説明した資料 5-4 の財政推計で、財政調整基金残高しか記載はされていない状況であるが、財政からはここに記載されている推計については、データセンターができた税収も見込んだ数値で試算されていると聞いている。(事務局)

→工事に入る前に小耳に挟んだ話では、耐震的に 2 階の張り出した部分や大ホールなどの部分が不安だという話を聞いた。そういったものは全く今、何もしなくても使い続けても平気なのか。全く白紙に戻すとして、今はすごい物価高で、工事を遅くすれば遅くするほど、お金がもっとかかるのではないかと。何とか最低限の工事だけでもなるべく早く始められるようにしたほうが良いのではないかと。(委員)

→耐震性の部分については、この建物が平成 6 年に建てられている。一応設計等はいわゆる新耐震といわれる建築基準法上の新しい耐震基準で作られている建物になっている。東日本大震災の時にも設備の点検は入っており大丈夫だったが、東日本大震災後さらに建築基準法が変わり、大ホールの天井に関しては、実際、地震で落ちてしまったというような施設も全国の中にはあり、当館も現行の基準には今適応していないという状況になっている。なるべく早くというところだが、実際空調とかはご存知のとおり、30 年ずっと更新をしていない状態で、もういつどうなるかもわからない。物価高もあるため、この文化センターが急に使えなくなることがないようにスピード感を持って進めていきたいと考えている。(事務局)

→耐震基準を満たしていないのは天井だけで、次に建て替えるときにそれを直せばいいという約束ですよね。現行を直さなければいけないという法律ではないので今のところは問題なく使えるという状況。(会長)

→委員からいただいたような話は、教育委員会でも教育委員から出されていて、文化センターの大ホール天井の改修の検討というのが議会での附帯決議がスタートだった。そういった大ホールの天井を含めた検討をしないといけないところから始まっているので、ご説明した通り 30 年間使っているので大規模改修をして安全安

心に使えるようにすべき時期に来ているのは重々承知しているが、先ずは市民の皆さんに安全で安心して利用していただけることと、会長が懸念されていたような急な休館がないようにしなければならないと考えている。そのために大ホールの天井も含めて早急に修繕が必要な設備はなるべく早く修繕計画を作成するなどして、当面施設が安全に利用し続けられるように適切な維持管理はしていきたいと考えている。(事務局)

→非常に厳しい状況は理解できるが、いつかやらなければいけないけど、いつできるのだろうというのは多分誰も答えられないと思う。それでも検討を続けていかないと未来永劫できなくなってしまい、本当になくなってしまうので、市の教育委員会の中で細々と検討を続けていただきたい。答えを求めることもなく要望だが、そうしないと本当に困ると思っている。近隣の例えば鎌ケ谷市、印西市を含めてこの規模をも持っているのはここだけである。フルオーケストラが入って演奏会ができるホールは、鎌ケ谷市のきらりホールはちょっと狭い、印西市の市民文化会館も狭くて入らない。千葉ニュータウンフィルハーモニーオーケストラがわざわざ白井でやっているのはその大きさの問題で、ここがなくなると結構近隣が全部困ると思う。場合によっては近隣の市も巻き込んで、何かしらの検討ができるかというのはお願いしたい。市長間同士の話し合いとか、大きい話でとてもできる話ではないと思うがそれくらいのことやらないと、本当にこのままお金が無いという理由で終わってしまうと思う。そういうところまで踏まえて先の長い話でいいので、検討いただきたいと思っている。状況が変わってくる話では十分あると思う。白井地区の駅前再開発を見たときに、会議スペースや中ホールレベルは作れると思う。ただ大ホールは何十億とかかってくる話なので、そこまでは行き着かないと思う。見直しをかけたとしても、もっといろんな枠組みを考えないと前に進まないの、色々な手法等を考えながら細々と運営を続けていただきたい。(会長)

4 会議閉会